

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4671500082
法人名	有限会社 さくら商事
事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
訪問調査日	平成 20 年 4 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671500082
法人名	有限会社 さくら商事
事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
所在地	鹿児島県鹿児島市東佐多町2060 (電話) 099 - 295 - 2422

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年5月27日

【情報提供票より】平成20年3月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 16.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円(光熱費込み)	その他の経費(月額)	3,000円(日用品代)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

### (4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲病院 有村病院 西園歯科
---------	----------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

吉田さくらの里は鹿児島市のはずれで始良町、蒲生町と接する位置にあり、周辺は田んぼや畑があり自然に恵まれた環境にある。広い庭には順次咲くように種類の違う桜の木が植えられ、玄関周りは季節の花が咲き誇り、庭の菜園は多くの野菜が植えられて散歩が楽しめる。先代の社長が「高齢者を抱え困っている家族に手を貸したい。お年寄りを大切にしたい。」という考えから設立された。その考え方は現在の事業主、管理者、職員に浸透しており、ホームは明るい雰囲気、入居者の方も我が家のように落ち着いて、日々の生活をその人らしく楽しんで過ごされている。今後地域にとって無くてはならない重要な施設と期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年、地域とのつきあいについて町内会入会を勧められたが、努力をするも実現に至ってない。市の担当者との関係づくりを深めることについては、会社の統括部長だけの出入りだけでなく、管理者や主任も積極的に向かっている。職員のユニット間の大きな異動は、控えた取り組みに改善されている。重度化や終末期に向けた方針については今後引き続き課題となっている。災害対策についてのマニュアル、備蓄、近隣の協力体制は改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は自己評価の意義を理解し、全員参加で3ヶ月かけ自己評価の作成に取り組んでいる。管理者がまとめたものは、全員が目を通し共有できている。今後の改善課題についても継続して取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。メンバーの忙しい立場に配慮することから、議題に即したメンバーのみを招集するようになり、本来の運営推進会議のあり方からかけ離れてきている。事業所としてもそれに気付き取り組み方を検討中である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>事業所は、家族の意見や苦情、不安を聞く窓口として、来訪者がホームに気軽に足を運んでもらえるように心がける事を重要視している。直接会話したり、伝達ノートを使用したり、窓口に意見箱置いている。家族会、運営推進会議に於いての意見、家族に事業所の運営に関してのアンケート調査での意見を聞き、それらを検討し運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の文化祭、地域若者のボランティア、地域サロン(高齢者介護予防教室)、地域での買い物、地域の奉仕作業、敬老会、運動会などに参加したり、小中学校の職場体験の受け入れ、ホームの夏祭りへの呼びかけ、ホームの防災訓練への参加の呼びかけなど、日常生活において連携している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は平成15年開設時から「この家で共にくつろぎ、共にやすらぎ、地域とのふれあいのある暮らし」を理念として運営されている。グループホームが地域密着型サービスに移行する以前より、既に地域の中で暮らす重要性を考えてつくられた事業所独自の理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の2ユニットの合同会議や、日々の申し送り後に於いても、管理者、職員は日々のケアの取り組みが理念に基づいているか話し合いを行い職員の意識の統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学生の職場体験学習の受け入れや、地域の方にホームの夏祭り、防災訓練など参加してもらっている。又地域行事の文化祭、ボランティア組織、敬老会、運動会、いきいきサロン(高齢者介護予防教室)への参加、近くの店での買い物をする等地域との交流は積極的にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解し全員で取り組んでいる。改善点についても改善の目標に向けて取り組みをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の発足より、2ヶ月に1回の会議を開催している。会議のメンバーの忙しい立場に配慮することから、会議の議題に関係するメンバーに召集することに偏ってきた。ホーム自体が会議の議題に合わせたメンバー招集の仕方に疑問を感じ、方向の修正を考えている。		運営推進会議では事業所の活動状況を地域の方に明示することで、メンバーそれぞれの立場からの意見、要望、助言を得ながら地域との交流促進をしていくもので、毎回全メンバーに声かけされ地域に開かれたサービスとして質の確保を図られることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上にとりくんでいる	市町村窓口には会社統括部長、管理者、主任などが出かけ、ホームの状況報告をしている。運営推進会議のメンバーの依頼をしたが実現できなかった。いきいきサロンの要請には専門職を活かし参加している。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族への報告は、利用者ケアマネが思いや、健康、暮らしの状況など便りを書いて、請求書、小遣いの明細と一緒に毎月送っている。2～3ヶ月に1回ホーム便りを発行している。ご家族の来訪時には、個人別伝達ノートを使いどの職員でも対応でき、報告に漏れが生じないようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や窓口の意見箱の設置、又年1回家族にホームの運営に関して5項目のアンケート調査を行うなどご家族の意見、不満、苦情、要望などを表せる機会を設けている。内容によってミーティングや運営推進会議で話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は前年度夜間緊急時を考慮し、職員は全ユニットの状況を把握しておく必要性を考えユニット間の大幅な職員の異動を行った。これが外部評価の改善点にあがったため、今年度はユニット間の異動は最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加希望者を募り、資格、経験を考慮し、出席の人数を選んでいる。又事業所内の勉強会の充実も図っている。外部研修の伝達講習も行われ職員の技術や知識の向上に努めている。新任研修についてはマニュアルにそって教育されている。		今後は現任の内部研修の年間計画を立てられ、見える形で研修を行い、職員の技術や知識の向上につながることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、地域の同業者と交流がある。情報交換したりネットワーク作りをして質の向上に努めている。		現在活動できる職員は、副主任より上に位置するメンバーに限られている為、そのほかの職員も参加できる取り組みを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたっては、本人やご家族が2～3週間かけて施設入居体験をして馴染んでもらい、一人ひとりの状況に応じご家族と相談しサービスの開始をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の方が過ごされてきた過去の生活を理解し、押し付けないよう、手を出し過ぎないよう、人生の先輩に尊敬をもって接している。喜怒哀楽を共にして、本人から学んだり支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの連絡帳を活用したり、ご家族から本人の希望、意向を聞いたり、日々の生活の中で本人の言葉、態度からも察知している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人やご家族の希望や意向を重視し、家族、ケアマネ、主任、副主任で、医師の意見書を参考に、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のモニタリングをしている。変化があった場合は随時見直し新たな介護計画を作成している。3ヶ月に1回本人、家族、関係者とプランの見直しをし介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族の状況に応じ、病院受診、往診対応、買い物、自宅訪問、起立訓練等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は本人やご家族の希望するかかりつけ医との関係を築き受診、往診が受けられるように支援している。緊急な場合も、家族の了解の下に協力医院との連携を図って適切な医療を受けられるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について家族とは話し合いをしているが、ホームとしては今までに経験が無い。対応に向けてターミナルケアの研修に参加をしているが、全員で方針を共有する話し合いまでには至らない。		今後重度化した場合や終末期の看取りについては、全員が共有して対処できるよう学習されることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、合同会議や日々のミーティングに於いて、入居者の対応に関する言葉使いや態度についてプライバシーを損ねないよう具体的に職員と話し合っている。日誌などの記録は、個人情報の取り扱いに配慮した書き方をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを尊重し、その日の朝希望を聞き、その人が希望する生活に合わせ、散歩、買い物、美容院、テレビ視聴、ドライブ、レクリエーション、貼り絵など柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、庭で育てた旬の野菜を使ったり、献立を考えたり、調理、準備、片付けまで食事の一連の流れを一緒にやっている。食事は、童謡を聴きながら職員も一緒にテーブルに着き、楽しそうに話しをしながら家庭で見る光景である。時々外食も楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は10時頃から午後4時頃を目安に希望に応じた入浴支援をしている。東ホームは入浴日を毎日とせず隔日として、楽しみごとの時間を増やしたい意向を持っている。入浴希望があれば柔軟に対処している。西ホームにおいては、毎日入浴支援をしていく方針である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に応じて、食事の下ごしらえ、片付け、洗濯物の片付け、園芸の指導、切り干し大根、梅干作り、味噌作りなど協働できる場面を作っている。庭でのランドゴルフは車椅子の人も参加して楽しみの気晴らしとなっている。歌、裁縫、ちぎり絵、計算ドリルとその人の楽しみにあわせて支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、体調や希望にそって、庭や歩道の散歩、近くの店に出かけている。車で出かける時は自宅や、墓参り、友人宅への訪問、花見、買い物、外食と気分転換になるよう外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは手動で開き、自由に出入りできる。日中は鍵はかけていない。門戸も開放している。職員は出かける傾向にある人は注意して見守って、出かける行動に対しても納得されるように一緒に歩いたり、会話したり対処されている。職員は常に意識して確認をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いで、職員・入居者・地域の人と消防訓練をし、それ以外に1回自主訓練をしている。災害に対するマニュアルを作成し、備蓄品の備えもしている。水害時は各棟で夜勤を2名体制にしている。地域の協力を得られるよう働きかけている。		災害時にマニュアルが活かせるように日頃の自主訓練を増やし、特に夜間想定避難訓練は全員が自信を持って対処できるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	水分、食事の摂取量を記録して、気になる場合は医師 と連携を図っている。栄養のバランス、カロリー、食事形 態については看護師が留意しながら献立にかかわって いる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用 者にとって不快な音や光がないように 配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫を している	共用空間は、日当たり・風通しが良く、風呂の洗い場・ 洗面所・トイレも車椅子で楽に使用できる。居間、食 堂、調理場、玄関は、一度に見渡せる空間で広々とし ている。また、生活の物音、匂い、人の動きが感じられ 落ち着く場所になっている。テーブルには庭にある桜、 雛菊を生け、壁には入居者の作品(桜を表現したちぎり 絵)を飾り季節感を採り入れている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、本人が居心 地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、ホームの備え付けのベット、整理ダンスのほ か、入居者と家族が相談の上使い慣れた家庭の鏡台、 テレビ、湯のみ、時計、布団がある。好みの鉢植え、思 い出のぬいぐるみ、写真、手紙など持ち込まれ、それぞ れが個性のある居室になっている。		